



いしかわ労福協

第 481 号 2008年2月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 上田弘志
編集人 綿 征一
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行
定 価 一部 20円
昭和39年3月30日 第三種郵便物認可

ろうきんフェスタ2007

家族連れ約750名が来場



金沢地域ライフ・サポートセンターと北陸労働金庫本店・金沢南支店・金沢西支店・県庁出張所が主催する「ありがとう『ろうきんフェスタ2007』お客様感謝祭」が12月15日(土)、金沢市の県産業展示館で行われ、歌手の山本あきさんのミニライブや家具調コタツ・温風ヒーター等が当たるお楽しみ抽選会、陶器絵付け教室、山野草・草玉づくりなど多彩な催しが繰り広げられた。また、同会場で「ファミリーふれあい書画展」が開かれ、親子が一緒に取り組んだ書や水彩画など81点を展示。勤労協顧問の杉村雄二郎氏(画)と氷田清風氏(書)の講評と表彰式も行われた。尚、入賞作品の一部は12月18日～28日まで、北陸労働金庫本店で展示された。

会場入口で行われた開会セレモニーで、佐々木良盛金沢地域LSC会長、南高広北陸労金本店地域推進委員長らが挨拶。主催者代表がテープカットした後、午前10時より開場したフェスタには、終日風雨の中を一般市民やろうきん友の会、連合組合員の家族連れら約750名が来場した。

地元のもつくり太鼓で開演したステージでは、一

昨年レコード大賞新人賞を受賞した山本あきさんの歌や杉山兄弟のスーパーシャボン玉ショー、ピエロショー、親子・椀子そば早食い大会が行われた他、北陸労金金沢南支店の滝貴子さんが、年末預金のお願いや労金商品をPRした。

会場にはその他、労金・全労済・住宅生協・労福協の「活動紹介・相談ブース」や、ふわふわ・エアサッカー・ヨーヨー・スーパーボールすくい・ポップコーン等の「チビッコゾーン」、たこ焼き・焼きそば・焼き肉・うどん・そば等の「飲食休憩ゾーン」、金沢湯涌みどりの里朝市組合が自然薯・白菜・大根、手作り豆餅・大根寿司等を販売する「朝市コーナー」も設けられた。

また、「チャリティーバザーコーナー」は、開場時から人垣で溢れ、午前中に完売。後日、売上金55,475円を金沢市長田本町にある社会福祉施設「特定非営利活動法人パッチワーク」に贈った。

尚、これに先立ち、当日各ポジションを担当した労金職員8名が12月12日、テレビ金沢の「びーびーみつばち」に出演し、フェスタをPRした。

金沢地域LSC事務局長 谷内英明



石川労福協 第5回理事会 2008年度活動方針案を協議

県労福協の第5回理事会が2月19日(火)、フレンドパーク石川で開かれ、第46回石川労福協定期総会を5月28日(水)に開催することや2008年度の活動方針(案)、予算(案)の骨子について協議した。

また、事業団体の役員候補者の選考についてや緊急サポートネットワーク事業、ライフ・サポートセンターの活動、第31回石川労福協研究集会の開催、2007年度労働者福祉基金管理委員会の開催、中部労福協第39回定期総会、住宅生協対策委員会の設置

等についても話し合った。

来年度の具体的な取組みは、労福協、県ライフ・サポートセンターを暮らしの総合サポートセンター(仮称)とし、～新たな事業の展開と既存事業の融合、充実～をテーマに就業支援・無料職業紹介所「ジョブいしかわ(仮称)」の開設や福祉と仕事(労働)相談の結合と充実、子育て支援・緊急サポートネットワーク事業の発展、石川県勤労者互助会事務局の設置、ライフ・サポートセンターの機能強化と活動充実等を目指す。その他、政策制度要求の実現、自治体要請行動の展開、労福協構成団体・各友誼団体・中央・地方労福協との連携、広報宣伝・研修活動・国際交流の取組み、石川県勤労者福祉文化会館(フレンドパーク石川)の運営等が提案された。

事務局日誌

<12月>

19(水) 石川県労金、全労済、労福協、連合との連絡会議 フレンドパーク石川
20(木) 中部会館協第2回幹事会(～21日) ゆのくに天祥
21(金) 第3回事業団体連絡会議 金沢市内
22(土) 2007年度餅つきボランティア 卯辰山 千寿閣
28(金) 事務局会議 フレンドパーク石川
〃 フレンドパーク石川互助会総会 フレンドパーク石川

<1月>

2(水) 谷本知事新年互礼会 ニューグランドホテル
〃 奥田建新年互礼会 ANAクラウンプラザホテル
8(火) 連合石川、労福協新春の集い 金沢都ホテル
〃 石川県平和運動センター「2008年新春の集い」 金沢スカイホテル
10(木) 連合金沢・金沢5ヶ所合同「2008年NEW・YEAR旗開き」 労済会館
12(土) 石川民社・友愛連絡会合同新春の集い 金沢都ホテル
〃 社会民主党2008年「新春交歓会」 金沢スカイホテル
17(木) 職業紹介責任者講習会 大阪市
〃 山口労福協視察(～18日) 山口市
20(日) 緊急サポート会員フォローアップ研修会 フレンドパーク石川

24(水) 第23回エコパ・北沢協力委員会 フレンドパーク石川
〃 第4回中部労福協幹事会(～25日) 和歌山市
25(木) 食・みどり・水第2回幹事会 フレンドパーク石川
〃 河北LSC年金生活設計セミナー 七塚学習センター

<2月>

1(金) 徳島南部地協視察受入 フレンドパーク石川
8(金) 連合石川第34回地方委員会 フレンドパーク石川
6(水) ろうきん理事運動推進委員合同会議 能美市
7(金) 事務局会議 フレンドパーク石川
12(火) 金沢市米消費拡大料理教室 金沢勤労者プラザ
14(木) LSC「第20回事務局連絡会議」 フレンドパーク石川
19(火) 石川労福協「第5回理事会」 フレンドパーク石川
21(木) 第39回中部労福協定期総会(～22日) 名古屋市
22(金) 金沢勤労者福祉サービスセンター第2回評議会 金沢勤労者プラザ
〃 北陸労金金沢地区「事務担当者研修会」 ANAクラウンプラザホテル
24(日) 緊急サポ「サポート会員研修会」 フレンドパーク石川
25(月) 食・緑・水ネット「アジア・アフリカ支援米発送式」 金沢市役所前

子育て支援 いしかわ緊急サポートネットワーク

サポート会員フォローアップ研修会

1月20日(日)午前9時30分より、フレンドパーク石川で緊急サポートネットワークの「第2回サポート会員フォローアップ研修会」を開催した。

25名のサポート会員が参加した研修会では、才田巖労福協専務理事が挨拶した後、講師の村中智恵氏(津幡町社会福祉協議会親子サロン)が、「子育てたまり場」と題して講演した。

引き続き、6つのグループによるグループワークを実施。各グループでは、それぞれの体験に基づき、子どもを預かった時に起こった、困った事例について解決方法を含め討議し、その後、グループごとに発表。その中で、水痘の病児を預かった時の対

会員募集状況／サポート状況

1月31日現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	5 (+2)	3 (+1)
わじま	2	8	3 0
ななお	5 (+1)	3	1 0
はくい	1	5	0 0
かほく	11	41	27 (+4)
かなざわ	80 (+4)	210 (+4)	319 (+34)
はくさん	24 (+2)	54	57 (+15)
こまつ・のみ	14 (+2)	25 (+1)	25 (+3)
かが	3	4	0 0
計	146 (+9)	355 (+7)	435 (+57)

※()は前月比。尚サポート回数は、今年度の総数

処法についての話は、サポート会員に大いに参考となった。

今回は冬場でもあり半日の研修となったが「もっと長くやってほしい」との意見も出された。

緊急サポ・アドバイザー 直江圭祐

NPO法人
ボランティア団体

助成金を贈呈 北陸労働金庫 (新) 勤労者互助会を設立

1月21日、金沢勤労者プラザで「助成金交付団体目録贈呈式」が開催され、北陸3県で活動するNPO法人・ボランティア団体に対して、北陸労働金庫から助成金が贈呈された。



初めに、川淵尚志北陸労働金庫理事長が「労働金庫は安心・健全・貢献をモットーにしており、社会貢献の一環としてNPO助成金制度を続けている。これからも生活総合福祉金融機関として更にステップアップできるように頑張っていきたい」と挨拶し、団体代表者一人一人に目録が贈られた。交付団体を代表し、NPO法人「かみいち福祉の里」(富山県上市町)の森勇事務局長からお礼の言葉が述べられた。

今年度は34団体からの応募があり、審査対象となった33団体について協議した結果、すべての団体が助成金制度の趣旨に沿った活動を行っている」と判断し、総額294万円の助成金が贈呈された。

贈呈式では、助成金交付団体を代表して、石川県ことばを育む親の会(石川県野々市町)、精神保健ボランティア「クレヨン」(福井県福井市)、NPO法人

北陸労働金庫は、今年4月に北陸三県の県庁所在地に新組織の「勤労者互助会」を設置するため準備を進めている。この新組織は、未組織勤労者を対象とし、従来から勤労者互助会組織はあったが活発な活動実態がなく、新たな「勤労者互助会」設立により活性化を図る。

1月23日、北陸労金本店ビル会議室で「石川県勤労者互助会設立準備委員会」を開催。冒頭、上田弘志連合石川会長・石川労福協理事長が「未組織労働者の福祉の充実に向け、新勤労者互助会を設立し活動を進めなければならない」、川淵尚志北陸労働金庫理事長が「07年12月末の加入登録者数は石川県8,600人、福井県9,500人、富山県6,700人で早期に2万5千人台に乗せ4月からスタートさせる方針」とそれぞれ挨拶した。

会議では、設立準備委員と事務局を石川労福協ライフ・サポートセンターに置くことを確認したほか、役員、規約、各地区代議員の選出方法、スケジュール等を協議した。

グリーンウェル(福井県あわら市)の3団体から活動報告が行われた。また交流会では、参加した各団体の活動紹介や情報交換があり、親睦を図ることができた。

就業支援に向けて ジョブやまぐち(山口労福協)を視察

県労福協第4回理事会(12月6日開催)で承認された「勤労者の就業支援を目的とした無料職業紹介所『ジョブいしかわ(仮称)』」の開設に向け、1月17日、先進的に取り組んでいる山口県労福協の「ジョブやまぐち」を、県LSCの谷内英明と南野利明両事務局次長が視察訪問。加藤栄山口県労福協専務理事と定石征洋室長より説明を受けた。



最初に、定石室長が相談から就業斡旋に至るまでの流れについて、「相談員は求職者の立場に立たないことが大切であり、あくまでもアドバイスを基本とすべき」、「相談者には時間をかけて(2時間程度)

ゆっくり悩み等を聞き、まず信頼関係を築くことが大切である」と話し、我々が事前に描いていたイメージと180度違うことにまず驚いた。その他、職業紹介申込書や面接要領、相談者の就業状況フォローに至るまで現場の声を聞くことができ、大変参考になった。

次に加藤専務より、「ジョブやまぐち」の開設から今日までの経過説明を受けた。特徴を列記すると①相談に来た人のみ対応。②企業訪問等の求人開拓はしていない。③求職者に対し職安はアドバイスする時間が少ないので当所は聞き役に徹し時間を掛けてアドバイスしている。④職業斡旋はあくまでも職安と情報を共有化し、ネットワークで構築している。⑤相談者の60%が主婦であり、パート職等を希望している。

その他、山口県労福協の日常の取組みとして「あんしんサポートガイド」と「ぶちとくカード」を発行し、グルメやショッピング、レジャー等の10%割引サービスも実施している。

尚、昨年11月に県労福協の才田巖専務理事と綿征一常務理事が岡山県と香川県の労福協を訪れ、それぞれの無料職業紹介所の視察を行った。

県LSC事務局次長 南野利明

勤文協
主催

第38回石川県勤労者早春書画・生花展 新春を彩る絵画、書、生花を展示

石川県勤労者文化協会主催、石川県労働者福祉協議会と北國新聞社が後援する「第38回石川県勤労者早春書画・生花展」は1月24日から27日まで、金沢市片町のラブリオ片町アートシアターいしかわで開催された。

会場には、日頃、創作活動に励む県内の勤労者や主婦、高齢者らアマチュア作家の力作、日本画7点、洋画35点、書道74点、計116点が展示された。

また、勤文協所属・華道の草月流・山田珠峰先生、中村雨光先生、小林嶺智先生、池坊・竹内幸先生と各生徒による生け花27点が会場を彩った。

最終日には、同会場で日本画の下村正一先生、書道の氷田清風先生による合評と表彰式が行われた。



入賞者の皆さん

◇日本画▽北國新聞社社長賞 辻和和▽石川労働協理事賞 河合百合子
◇洋画▽北國新聞社社長賞 多田公子▽石川労働協理事賞 星孝次▽金賞 石倉博美▽銀賞 有田和左▽銅賞 大倉美智子▽佳作 福田重成、庭田津都哉、田中宏晃、森保弘、島山隆、水口恵美子、吉本志津江、東智子、麻田克則、瀧尾勲、生島純子、浜谷豊久
◇書道▽石川勤文協会賞 種本香代子▽北國新聞社社長賞 井村礼子▽石川労働協理事賞 北祐川▽金賞 青野満利▽銀賞 前川久栄▽銅賞 松田泰子▽佳作 渡谷睦子、高由紀、竹田美津子、三浦利明、米村悠子、木戸博子、村本和穂、白井ゆり子、山崎礼子、下島富美子、中本富子、山下好栄



勤体協第42回冬季体育大会「卓球で火ぶた」

石川県勤労者体育協会主催「第42回冬季体育大会」が2月10日の卓球大会を皮切りに開始された。

金沢市中央市民体育館で開かれた「卓球大会」は、県内各地から幅広い年齢層の94チーム約500名の選手が出場。硬式・ラージの男女10部門で熱戦が展開され、硬式の男子Aは卓志会、女子1部Aはあての会がそれぞれ優勝。ラージはシルバー（合計年齢160-239歳以上）とゴールド（同240歳以上）の男女とも能美クラブが制した。

冬季体育大会はこの後、2月24日、3月2・9・16・23日に「バスケットボール大会」が、3月16日に「バドミントン大会」が開かれる。また、3月2日の「ソフトバレーボール大会」と3月16日の「卓球大会(3人3W)」は、県ライフ・サポートセンターと共催でそれぞれ開催される。

【硬式】◇男子A準決勝 卓志会2-1木曜会A、Free Style 2-0あての会A▽3位決定戦 あての会A2-0木曜会A▽決勝 卓志会2-0Free Style
◇男子B準決勝 倉庫精練2-1NOTOヤンキース
A2-0宝町ク、ダックスA2-0あての会C▽3位決定戦 宝町ク2-0あての会C▽決勝 倉庫精練A2-1ダックスA
◇男子C準決勝 小松卓協A2-0余喜あつちゃんズ、あての会B2-0ぬかク▽3位決定戦 ぬかク2-0余喜あつちゃんズ▽決勝 あての会B2-0小松卓協A
◇女子1部A準決勝 あての会2-1西南部クA、四十万・米泉2-1勤体協▽3位決定戦 勤体協2-0西南部クA▽決勝 あての会2-1四十万・米泉
◇女子2部準決勝 あけぼのク2-0ピンポンランラ、小松二水会 感 2-0カトレアA▽3位決定戦 カトレアA2-0ピンポンランラ▽決勝 あけぼのク2-1小松二水会(感)
金沢兼六ク
【ラージ】◇男子シルバー1回戦 ななク2-1内蔵ク菊 金沢兼六ク2-1大森公民館A▽準決勝 のとき公民館A2-0ななク、能美クラブ2-0金沢兼六ク▽3位決定戦 金沢兼六ク2-1ななク▽決勝 能美クラブ2-1のとき
◇男子ゴールド準決勝 白山ク2-0金沢兼六クA、能美クラブA2-0京華クA▽3位決定戦 京華クA2-1金沢兼六クA▽決勝 能美クラブA2-1白山クA
◇女子シルバーリーグ戦 ①能美クラブ②内蔵ク③のとき④白山ク⑤大浦公民館
◇女子ゴールド準決勝 能美クラブ2-0ななク、金沢兼六ク2-0羽咋卓友会▽3位決定戦 羽咋卓友会2-1ななク▽決勝 能美クラブ2-1金沢兼六ク

日本画



労福協理事長賞
「春の訪れ」河合 百合子（羽咋市）



北國新聞社長賞
「柿」辻 与和（内灘町）

書 道



石川勤文協会会長賞
「西行法師の歌」種本 香代子（津幡町）



労福協理事長賞
「寿 春」北 祐川（小松市）



北國新聞社長賞
「我が春」井村 礼子（金沢市）



金 賞
「風花雪月」青野 満利（金沢市）

洋 画



労福協理事長賞
「亀甲橋」星 孝次（金沢市）



銀 賞
「踊る松（おどるまつ）」有田 和左（能美市）



銀 賞
「無一物」前川 久栄（金沢市）



北國新聞社長賞
「咲きほこる」多田 公子（金沢市）



銅 賞
「水仙」大倉 美智子（金沢市）



銅 賞
「笑門来福」松田 泰子（白山市）

地域ライフ・サポートセンターだより

河 北

緊急サポ・かほくセンター
クリスマスデコレーション手作り

12月16日(日)、河北地域 L S C は、かほく市七窪公民館で子育て支援「緊急サポートネットワーク事業」河北地域の利用会員とサポート会員の交流会を開催した。

当初予定の交流会から、「クリスマスデコレーションケーキ作り」に企画変更したところ、サポート会員3名、利用会員10名が応募。それぞれの家族と事務局を含め、総勢52名(大人27名、子供25名)が参加した。

会場では、前後和雄 L S C 会長と直江圭祐・緊急サポアドバイザーが挨拶した後、青木クッキングスクール教頭の加藤先生の指導のもと、ケーキ作りを開始した。

まず、加藤先生がスポンジケーキを作り、デコレーションの仕方をユーモアたっぷりのトークで実演。子供たちが一生懸命先生の手元を覗き込む姿が印象的だった。その後、家族ごとに分かれ、親子が協力しながら一台ずつデコレーションケーキを完成させた。先生が作ったケーキは、子供たちがジャンケンゲームをし、優勝者が獲得した。

参加者はそれぞれが作ったケーキを大事そうに持ち帰った。

河北地域 L S C 事務局長 吉川武久

年金生活設計セミナー

河北地域 L S C 主催の「平成19年度年金生活設計セミナー」が1月26日、かほく市七窪生涯学習センターで、馬場壮一郎社会保険労務士を講師に迎えて行われた。

馬場講師は、「年金と保険＆税の知識」と題し、年金制度や後期高齢者医療制度、改正雇用保険、60歳代前半の公的給付と働き方の関係、税改正(定率減税廃止等)をパワーポイントで分かり易く説明。講演後、数名の個別相談にも応じた。

当日は、今年初めての本格的な降雪と金融機関が同じ場所で年金個別相談を実施していたため参加者数が心配されたが、30名もの出席があった。帰り際に出席者から「良いお話を聞かせていただいてありがとうございます」とのお礼の言葉を頂いた。

河北地域 L S C 事務局長 吉川武久



白山・野々市

クリスマスリース作り教室

クリスマスを間近に控えた12月16日(日)午前10時より白山市労働会館で、白山・野々市 L S C 文化部会主催恒例の「クリスマスリース作り教室」を開催した。

参加者32名は、「花あしらいいセゾ」の講師2名よりリース作りを丁寧に教えていただいた。

今年は特に、クリスマスリースを正月飾りにも利用できるよう工夫された教材を使用した。

用意された材料は、基本的に各自とも同じだが、綿の実やリボン等、装飾用具を取り付けていく段階になると、それぞれの個性が現れ、独創的なリースが出来上がっていった。更に正月飾りにするための教材も加わった。

出来上がったリースをお互いに批評し合いながら、楽しい創作の時間を過ごした。

白山・野々市 L S C では、次年度以降もこういった文化教室の開催を計画している。今回参加できなかった方についても、次のチャンスに是非参加していただき、楽しい時間を共有できればと思う。

白山・野々市 L S C 事務局長 福村滋

新春の集い

各地域ライフ・サポートセンターの「2008年旗開き(新春の集い)」が相次いで開催された。

金沢 L S C は1月10日「労済会館」で約300名、七尾・鹿島 L S C は1月16日「七鹿労働会館」で77名、輪島・穴水 L S C は1月23日「輪島・米久」で44名が参加した。

各旗開きは、連合地協と合同で開催。L S C 会長と地協議長がそれぞれの旗を開き新年の挨拶をした。

連合金沢・金沢 L S C 合同旗開き



白山・野々市 '08新春の集い



白山・野々市LSCは1月16日(水)午後6時より、白山市学習センターのコンサートホールで「'08新春の集い」を開催した。

参加者は出演者も含めて約300名と、昨年に比べて人数は減少したが、会場全体は参加者の熱気で熱い雰囲気包まれた。

今年で5回目の新春の集いは、恒例となったステージ発表の第一部で「舞踏楽田中屋」の9名による舞踊、第二部で昨年評判だった、参加者と一緒に体を動かす「白山市・すみれサークル」13名によるリズムダンスが披露された。

幕間では、主催者の油省三LSC会長と来賓の南野利明県LSC事務局次長がそれぞれ挨拶した。

第二部終了後には、絹川章LSC会長代行が中締め挨拶、その後、これも恒例となった「お楽しみ抽選会」を行った。今年の賞品は地産地消を目的に、白山・野々市地域の物産を主体としたためか、例年以上に当選番号が発表される度に会場のあちこちで歓声が上がった。

当日は、冬型の気圧配置が強まり、大変寒い日となったが、役員の皆様、大変ご苦労様でした。

白山・野々市LSCでは、今後もより地域と密着した活動を行っていきたくと考えています。

白山・野々市LSC事務局長 福村滋

輪島・穴水 能登半島地震・罹災者懇談会を開催

『能登は着実に復興しています。今後は我々の手で風評被害をなくそう!』12月3日(月)、輪島・穴水LSCと全労済石川県本部は、輪島市労働会館で「能登半島地震・罹災者懇談会」を開催した。懇談会には、罹災者8名と主催者3名が出席し、以下の内容が話された。『1日でも早く完全復興することを心からお祈りします』

県LSC事務局次長 南野利明

1. 地震発生時の状況は？

- ・畑仕事をしていたが、周りの建物が海の波のように揺れ、自分も目まいがして立っていらなかった。
- ・最初にガスを止めようと思ったが、体が硬直して動かなかった。金縛りに遭ったような感じ。
- ・市営住宅に住んでいたが、揺れが長く感じた。
- ・子供を抱きかかえ、物が落ちるのを見ているだけだった。
- ・車で志賀町を走行中、国道249号線で道路が陥没、かつ大きな段差が発生し、怖くて走れなかった。

2. 被害状況と今後の再建に向けての思いは？

- ・全壊したが、幸い外に出ていてケガ人はなかった。現在、親戚の家に住んでいる。新築については、資金面を含めて検討中であるが再建は厳しい状況。
- ・一部壊で階段が曲がり、柱に多くの亀裂が入った。地元の工務店が年内は空いていないとのことで、自分で応急処置をし、現在も住んでいる。
- ・一部壊で、特に仏壇の仏具がほとんど壊れた。先祖に申し訳ないと思い、少しずつ修理していく。
- ・家財を中心に被害を受けたが、もう高い所には絶対物を置かないでおこうと思った。

3. 全労済の加入状況と対応は？

- ・組合から2月1日発効の火災共済の募集があり、あまり関心がなかったが、手頃な「おすすめプラン」になんとか入った。まさか2ヶ月後に地震に遭うとは!今は、組合に感謝している。
- ・全労済は罹災後、すぐに駆けつけて、家の隅々まで丁寧に調査した。
- ・罹災前、近所の老夫婦が「火事に遭わない」との理由で、2月末更新しなかった。その家が全壊し、すぐに全労済に連絡したが、未継続と知り地区運営委員としてショックを受けた。

- ・火災と自然災害に300万円ずつ加入していたので全壊で90万円を受け取った。火災共済だけならこんなに出ないが、自然災害に加入していて助かった。また、共済金も1週間以内に支払われ、家族みんなで手を合わせた。
- ・全労済の現場調査の対応は早く、親切だった。親戚で保険会社に加入していたが、電話だけで「対象外」と言われた。私の近所では全労済の評判が口こみで広がっている。
- ・私は全労済の火災共済、親父はJA(農協)の建物更生共済に加入していたが、JAは再取得価格の5%以上でないと対象にならなかった。しかし、全労済からは見舞金20万円が支払われた。

4. 全労済に対しての今後の要望は？

- ・自然災害共済は火災共済と同額付帯になっており、収入の少ない老夫婦が多い能登のような地域では、掛金が高くて加入しづらい。せめて自然災害を半額付帯にすべき。
- ・全労済の現場調査員が、毎日、入れ替わりで調査していた。(ジャンパーの色で分かった。)もう少し効率的にできないかと感じた。

5. 地震を通しての感想

- ・今回の地震発生時間が日曜日のAM9時42分と、比較的家族が家にいなかったことなど、好条件が重なり被害が小さかった。これが平日のAM7時頃だったらと思うと寒気がした。
- ・門前町が災害前に輪島市と合併し、多くの面でスケールメリットが出た。
- ・全国から多くのボランティアが参加したが、手紙が貼られた家には一切入れず、手持ちぶさたにしていた。今後の教訓にすべき。
- ・私の所は3月27日に水道が復旧し、水のありがたみが本当にわかった。

6. 全労済からのコメント

- ・輪島市職員より「市民の加入者を最優先に現場調査してほしい」との声に「能登の心を大切にする気持ちが伝わり」対応の素晴らしさを感じた。
- ・全労済・中部管内からの多数の現地支援要員に対し、罹災者から心温まる対応をいただいた。
- ・現場調査後は「ありがとうございました」と見送っていただき、帰り際には手作りの野菜を下さるなど、「能登はやさしや土までも」を身をもって体験した。

さわやかU 年末恒例の餅つきボランティアを実施



さわやかUの年末恒例行事となった「餅つきボランティア」を、昨年暮れの12月22日(土)卯辰山公園内の健康交流センター「千寿閣」で実施した。

7年目の今回は、子供たちによる「餅つき体験」を合わせて企画したところ、80名の家族が飛び入り参加した。

当日はうす曇りの天気の中、午前9時から37名のボランティア会員が準備を開始し、9時30分からの開会式では、さわやかUの宮本一二事務局長が司会、澤信俊理事長と山口千寿閣館長がお礼の挨拶、特別参加の橋本和雄全労済石川県本部理事長や桑原豊衆議院議員、奥田建前衆議院議員、栗森概金沢市議会議員、中野喜佐雄元野々市町議員らを紹介し餅つきを開始した。

「餅つき体験」を行うため、例年よりもち米を増量し(計=18臼分・40kg)、蒸籠・釜・杵・臼も2セット用意した。つきて・手がえしが二組に分かれ、あんこ餅・きな粉餅・おろし餅作り担当が作業を進める中、「餅つき体験」で子供たちが父兄と共に楽しそうに餅をつく光景が印象的だった。

12時から2階の大広間で始まった「昼食会」に用意された200パックの餅はあつと言う間になくなった。

同会場では、才田巖専務理事が県労福協の「緊サポ」や「なんでも相談」等の取組みを紹介し、さわやかU会員・浅野正氏の司会で特別参加「北國文化センター・内灘教室」のボランティア8名によるフラダンスの披露も行われた。待ちわびた利用者らは餅を美味しく食べてながら踊りを見入った。

年に1度の「餅つき」ボランティアだが、継続することの大切さを認識し、今後の活動に生かしたい。

「さわやかU」事務局 野村昇司

フレンドパーク石川 防災・防犯講習会と互助会総会



防災・防犯講習会



互助会総会

12月12日(水)13時30分より、フレンドパーク石川のテナント役職員や防火責任者ら32名が出席し、「防災・防犯講習会」を開いた。

講習会の冒頭、才田巖自衛消防隊長が挨拶した後、金沢市西消防署担当署長補佐の金岡利明消防司令より、近年の火災状況について説明があり、続いて防火管理者に関するビデオを上映。「実際の火災時、慌てずに行動ができるよう、日常から消火器の場所確認や使用方法の訓練を行ってほしい」と要望した。

引き続き、石川県県民文化局県民生活課の新澤克之課長補佐が「石川県防犯まちづくり条例」の内容を説明。会館や地域での防犯対策について「一人ひとりが自らの安全を守るという意識を持ち、隣近所同士のコミュニケーションを図ることがポイント」と話し、同課の長井齊専門員が『草の根防犯座談会』の内容を説明。「いろいろな機会に是非、開催していただきたい」と要請した。

同会館は毎年、春は「避難訓練」、秋は「防災講習会」を実施している。

また、石川県勤労者福祉文化会館内で勤務する者(希望者)で構成する「フレンドパーク互助会」総会を12月28日(金)11時45分よりフレンドパーク石川2Fホールで開催。参加した41名の会員は、役員・幹事等を確認した。

引き続き行われた「忘年昼食会」では、「フレンドパーク互助会」の才田巖会長が挨拶、上田弘志副会長が乾杯音頭、綿征一幹事長が司会を務め、参加者は南野利明県LSC次長の進行による「運だめしビンゴゲーム」を楽しんだ。

徳島県南部地域労福協が来局

2月1日(金)、徳島南部地域労福協と連合徳島地域協議会の松江剛嗣議長他8名が石川労福協「ライフ・サポートセンター活動」の視察研修で石川県入りした。

当日は、最初に「小松・能美地域ライフ・サポートセンター」の事務局を訪問し、庭田茂男LSC会長より、主要活動である「木場潟一周健康ウォーク」や「ふれあいパーティー」、「退職前セミナー」等について説明を受けた。

その後、フレンドパーク石川で石川労福協の綿征一常務理事が、ライフ・サポートセンター事業の設立に至る経過や事業活動をパワーポイントで分かりやすく解説した後、意見交換した。

徳島南部地域労福協は、ライフ・サポートセンターを立

ち上げたばかりであり、労働団体との関わり方や経費予算、事務局体制、広報宣伝等全般にわたり多くの質問や意見が出された。

尚、当日は久しぶりの寒波により、朝7時30分にバスで徳島県を出発し、小松市に着いたのが14時30分と予定した時間より大幅に遅れた。

一行は翌日、雪の兼六園を観光し石川県を後にした。

県LSC事務局次長 南野利明



小松・能美LSCと交流



県LSCと交流